



SGN News



第37号 2020年8月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

ポストコロナ時代を見据えて サーキュラー・エコノミーと「グリーン経済」を考える

グリーン購入Webミーティング[Zoom利用]開催報告

プログラム

- 開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長)
- 講演1『未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話』
原田 禎夫さん (大阪商業大学 公共学部 准教授・プロジェクト保津川 代表)
- 講演2『捨てない未来はこのビジネスから始まる』
岩元 美智彦さん (日本環境設計株式会社 取締役会長)
- 質疑応答・ディスカッション
コーディネーター：高橋 卓也 (SGN副会長・滋賀県立大学 環境科学部 教授)
- グループ・ディスカッション (全員参加)

- ◆開催日：2020年6月2日(火)
- ◆参加者：70名



原田 禎夫さん



岩元 美智彦さん

ポストコロナと言われる時代が資源循環型で低炭素なより良い社会の実現に向かうものであるように、「サーキュラー・エコノミー(循環型経済)」、「グリーン経済」について共に考えました。

講演1『未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話』 原田 禎夫さん

2050年には、海は魚よりプラスチックの方が多くなるとも言われています。海のプラスチックごみの多くは陸から川を通じて流れ出した生活ごみののだそうです。プラスチックごみを誤食して命を落としていくミッドウェー島のアホウドリ。大阪湾に沈む300万枚のレジ袋。衝撃的な話をいくつも伺い、暮らしの中から排出されるプラスチックごみを減らすことの重要性に改めて気づかせていただきました。保津川の景観保全、環境保全を起点に、全国で初めてプラスチック製レジ袋の提供を全面禁止する条例を制定した亀岡市の取組についてもご紹介いただきました。

講演2『捨てない未来はこのビジネスから始まる』 岩元 美智彦さん

日本環境設計は様々なものをリサイクルする仕組みをつくっています。国内で廃棄される衣類は年間100万トン、カーペット等を含めると200万トンにもなるそうです。これら地上資源を循環利用することで、世界中の子どもたちの笑顔につなげたい。しかし、こうした話題に理解を示す方は僅か5%だとか。そこで95%の無関心層の興味を引こうと、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のごみを燃料とするデロリアンを模した車をつくり、実際にバイオエタノールで走らせたというエピソードなどを伺いました。「わくわく」を提供すれば人は行動してくれるというお話が印象的でした。

講演後のディスカッションでは、高橋卓也SGN副会長のコーディネートで、プラスチックごみ削減の運動がなぜ亀岡で進んでいるのか、プラスチックをリサイクルする場合のエネルギー収支、コストはどうなるのかなど、興味深い議論が行われました。参加されていたSGNアドバイザーの徳満勝久さん(滋賀県立大学 工学部教授)にも途中で登壇いただき、彦根市で集めたプラスチックごみを原料にリサイクル・プランターを開発されたお話を伺いました。

最後のプログラムは、SGN名物「参加者のグループ・ディスカッション」。Zoomの機能で13グループに分かれ、「ポストコロナ時代を見据えて、SGNで何をやりたいか?」議論していただきました。終了後のアンケート等から、どのグループも良い意見交換が出来た様子が窺えました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

INDEX



- ポストコロナ時代を見据えて
サーキュラー・エコノミーと「グリーン経済」を考える・・・1
- 2020年7月より全国一律のレジ袋有料化スタート・・・2
- 活動レポート・・・3
- 研究会レポート SDGs連続講座
「これならできる!ここならできる!SDGs」・・・4
- SGN会員でつながりレターク
株式会社ノエビア 滋賀工場・・・6
- 農業女子見つけたっ!③・・・6
- 新規会員からひとこと・・・7
- 会員発エコ商品情報・・・8
- 編集後記・・・8



2020年7月より 全国一律のレジ袋有料化スタート

2020年7月1日より、全国でプラスチック製買物袋の有料化が始まりました。滋賀県の食品スーパー等では既に当たり前になっている取り組みですが、対象となる事業者が広がりました。

対象業種

- プラスチック製買物袋を扱う小売業を営む全ての事業者が対象
 - 製造業やサービス業であっても、事業の一部として小売業を行っている場合は有料化の対象
- ※ 各種商品小売業、織物：衣服・身の回り品小売業、飲食料品小売業、自動車部分品・附属品小売業、家具・じゅう器・機械文具小売業、医薬品・化粧品小売業、書籍・文房具小売業、スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器小売業及びたばこ・喫煙具専門小売業

対象となる買物袋

- 消費者が購入した商品を持ち運ぶために用いる、持ち手のついたプラスチック製買物袋
- ※ 紙袋、布の袋、持ち手のない袋等は対象外
 ※ レジ袋であっても、以下は有料化の対象外
- ・ プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル（0.05ミリメートル）以上のもの
 - ・ 海洋生分解性プラスチックの配合率が100%のもの
 - ・ バイオマス素材の配合率が25%以上のもの
- （なお、対象外の袋には必要な表示がなされることが必要。）



価格・収益の用途

- 消費者のライフスタイル変革を促すという本制度の趣旨・目的を踏まえて事業者自ら設定（ただし、1枚当たりの価格が1円未満になる価格設定は不可）

※ 詳細は以下の経済産業省ホームページからご覧ください。

https://www.meti.go.jp/policy/recycle/plasticbag/plasticbag_top.html



滋賀県における活動を振り返って

「買い物による投票」だと言われるグリーン購入は、消費者側から企業の環境配慮行動を促し、社会を循環型に導く原動力となってきました。滋賀県にグリーン購入を推進するために設立された滋賀グリーン購入ネットワーク（当時・略称：滋賀 GPN）では、1999年の設立時より滋賀県と共にマイバッグ持参運動を進め、買い物によって生じる容器包装ごみを削減するために、3R（リデュース・リユース・リサイクル）やグリーン購入の啓発活動を続けてきました。2010年10月に、事業者が3年間でマイバッグ持参率10%アップなどを宣言する「滋賀県容器包装削減宣言式」が20事業者、県と県内18市町、15の市民団体にて執り行われた際には、滋賀 GPN が運営事務局を務めました。当時、既に富山県他6県が県域でのレジ袋無料配布中止を開始していましたが、滋賀県では、まず県内の事業者の意思統一から進める形を取りました。

そして、2013年4月より、県内の多くのスーパー等小売店でレジ袋無料配布中止の取り組みがスタートしました。環境に配慮した買い物を呼びかけるキャンペーンを10年以上継続し、様々な事業者の足並みがそろってからスタートしたことで、無理なくスムーズに始められたのではないのでしょうか。

滋賀グリーン活動ネットワークでは、全国での有料化に併せて、マイバッグ持参や不要な容器包装を断る運動をさらに進めるとともに、食品ロスの削減、資源の地域循環等の取組にも注力し、循環型社会の構築に向けた取り組みを一層強化することとしています。レジ袋無料配布中止は、容器包装ごみを削減するための小さな一歩です。これをきっかけに地球環境問題について考え、持続可能な社会づくりに向けて、できることから行動する方が増えることを願っています。

（SGN 会長 秋山道雄）



活動レポート

「自治体のグリーン購入担当者連絡会議」

開催日：2019年7月5日

環境省 大臣官房環境経済課課長補佐 眞鍋秀聡氏を講師に迎え、グリーン購入法の改正点を中心に講義いただいた後、参加者が5グループに分かれ、「さらにグリーン購入を広げるための取組」について幹事自治体の進行により意見を出し合いました。エコ商品に掲示する分かりやすい表示、広報誌やSNSの活用、子どもたちへの環境学習等、グリーン購入の理解を広げる方法に関する意見の他、ペットボトルを会議で禁止する、給水機設置店舗を増やす等、プラスチックごみ削減に関する具体的な提案も出されました。(参加者27人)



「未来をつくる消費者講座(全6回)」

期間：2019年7月～9月

滋賀県との共催で、グリーン購入やエシカル消費を進める消費者のリーダーを育成しようと、1回4時間、全6回の連続講座を開催しました。地球環境問題と自分とのつながり、その解決方法をバックキャストで考えるワークショップの他、滋賀県の農林水産業や琵琶湖の環境、SDGs、企業の取組事例等、盛りだくさんの内容でした。最終講義では、自分の知識や経験、想いを見つめなおしていただき、グリーン購入・エシカル消費を広げるためのオリジナル・プログラムを考え、発表していただきました。素晴らしいプログラムがたくさん飛び出し、聴いている事務局スタッフも胸が熱くなりました。(参加者延べ134人)



消費者講座 修了生記念撮影

素晴らしいプログラムがたくさん

「グリーン購入+エシカルキャンペーン」

「グリーン購入+エシカルキャンペーン・イベント」

期間：2019年10月～12月

開催日：2019年11月17日



エシカル消費を含めた滋賀県発の新しい消費行動を日々の生活に定着させることを目的に、キャンペーンを実施しました。200以上の小売店、会員事業者、県内全市町の協力を得て、ポスター、POPの掲示、店内放送、広報誌やホームページ等によるPRを行いました。また、ビバシティ彦根(彦根市)で啓発イベントも実施し、買い物にきた親子連れを中心に「エシカルすごろく」やクイズラリーで楽しくエコを考えていただきました。期間中、分かりやすい5つの行動として「マイバッグ・マイボトル持参」「省包装、つめかえ品の選択」「地元産品の選択」「フェアトレード商品の選択」「買い物メモ持参」「自転車や徒歩での移動」を呼びかけて参加宣言を募ったところ、14,820人の宣言が集まりました。



「三方よしエコフェア2019」

開催日：2019年12月7日

「グリーン購入+エシカルキャンペーン」の一環としてピアザ淡海(大津市)で開催し、企業やNPO等40者が出展してグリーン購入、エシカル消費の啓発を行いました。ステージでは、GINLALAによるエシカルソングのコンサートや、大津市出身の落語家 三遊亭わん丈さんによる「子ども『落語』体験教室」等を行いました。『落語』体験教室では、わん丈さんに海ごみ問題がテーマの落語「拝啓 浦島太郎さん」をご披露いただいた後、滋賀県 琵琶湖環境部 技監の三和伸彦さんに、琵琶湖のごみ問題についてお話しいただき、参加者と共にごみを減らすことについて考えました。(来場者600人)



会員講師派遣事業

期間：2019年10月～2020年1月

以下14名の方に3大学へご出講いただきました。滋賀銀行 嶋崎良伸さん、コクヨマーケティング 高橋伸年さん、日本電気硝子 外間喜春さん、ティーエムエルデ 藤井健さん、山室木材工業 清水国行さん、みんなの奥永源寺 前川真司さん、びわ湖放送 松本圭司さん、クミノ工房 井上慎也さん、滋賀県農政課 青田朋恵さん、せせらぎの郷 堀彰男さん、たねやグループ 水森貴文さん、リコージャパン 中野正敏さん、赤羽根裕香さん、オリックスファッション リティーズ 山之内禎生さん(出講日程順に掲載)。講師をお務めいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



実践講座後期3 佐藤祐一氏の講演

研究会レポート

～ 滋賀グリーンネット20周年記念事業 ～

SDGs 連続講座 (2019年8月～12月 全5回)

「これならできる!ここならできる!SDGs」

世界共通の目標である国連の「SDGs (持続可能な開発目標)」を理解し、企業経営に落とし込んでいただくための連続講座を、SGNの4研究会が協働で開催しました。その概要を報告します。

第1回 世界の潮流SDGsでビジネスチャンスをつかもう! 8月23日(金)開催

第1回は4研究会の合同企画。SDGsの総論、理念を学ぼうと、SDGパートナーズ(有)代表取締役CEOの田瀬和夫さんを講師にお招きしました。田瀬さんは元国連職員、現在は企業や自治体のSDGs取組支援をされています。豊富な知識と経験を踏まえたSDGsのビジョンに関するお話は、説得力のあるものでした。SDGsを経営に活かすポイントとして、時間的逆算思考(ムーンショット思考)、論理的逆算思考(演繹的イノベーション)等についてもお話しいただき、これからの企業経営の参考になったのではないかと感じました。参加者63名(定員50名)、その9割が企業の方で、全員が熱心に耳を傾けておられ、90分があったという間に過ぎました。

SGN事務局長 辻 博子



第2回 交通エコ・シフトで進める温暖化対策と健康経営 9月17日(火)開催



エコ交通研究会の公開セミナーは今回で第3回目となります。課題の問題提起は「持続可能な社会での交通のあり方とは?」と題し立命館大学理工学部環境都市工学科小川圭一教授による自転車の交通手段としての優位性についての比較を紹介。提言は全国屈指の自動車産業集積地の愛知県豊田市の(公財)豊田都市交通研究所研究部より石井真さんを迎えて、「エコ交通の必要性和豊田市エコ交通をすすめる会の取組」について紹介をいただきました。愛知県の都市や滋賀県の取組は国土交通省の自治体の取組事例としてリーフレットにも紹介されています。

エコ交通研究会のメンバーの報告事例はパナソニック(株)ライフソリューションズ社の平山紀秀さんより「営業用自動車に代わる電動アシスト自転車の導入」。(株)日立建機ティエラより「エコ通勤で進める健康経営 SDGs対応における位置づけ」を報告しました。どちらの事例もエコ交通に取組むことは環境対策と従業員の健康維持を図る健康経営を同時に進め、引いては企業価値を上げていく取組みになっていく事例です。セミナー後の第2部では「SDGs実践・交流塾」を第1回の講座に続き京都産業大学の宮永健太郎准教授の進行で開催しました。

エコ交通研究会 牛谷 健司(株)日立建機ティエラ



第3回 サステイナブルな未来のビジョン

～サーキュラーエコノミー(循環経済)とプラスチックの行方～ 10月17日(木)開催



ゼロエミ研究会は、当初は産業廃棄物の排出業者であるメーカーと廃棄物処理業者とで立ち上げ、情報交換の中から廃棄物の減量・リサイクルの取組推進を進めると共に、特にプラスチックごみについて、企業間での共同回収・リサイクルの仕組みづくりを検討して来しました。

2019年度の活動としてはSDGs連続講座の第3回の企画を担当。びわ湖環境ビジネスメッセの主催者セミナー「グリーン経済フォーラム」としての開催でした。その内容は、同志社大学の郡嶋孝名誉教授による講演1「循環経済とnew plastics economy～循環ビジネスとSDGs～」、大阪商業大学公共学部の原田禎夫准教授による講演2「未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話」、続いてスターバックスコーヒー・ジャパン(株)の普川玲さんの事例報告とパネルディスカッションを行いました。世界が脱プラスチックに向かう中、日本の取組が遅れていることについて考えさせられたフォーラムでした。

ゼロエミ研では、今年度から新体制にて新たな活動を模索中です。新メンバーも募集しておりますので、ご興味のある方は事務局までご連絡お待ちしております!

ゼロエミッション研究会 岡田 佳美(株)コクヨ工業滋賀



第4回 食品ロスの現状と「食の未来」を SDGsの視点から考える

11月20日(水)開催



農水省大臣官房政策課の鈴木健太さんの講演「食品ロスの現状と『食の未来』～SDGsの視点から～」では、1年間で624万トンの食品ロスが発生している事、また食品ロス削減策として1/3ルールの見直しや、賞味期限の年月表示などの新たな動向も紹介されました。SDGsを自分達の課題として捉え、社会的インパクトを考えた行動が必要というお話が印象的でした。

続いて、びわこ花街道、フードバンクびわ湖、しが農業女子100人プロジェクト、たねやグループが、それぞれの食ロス削減の取組などを報告した後、しが農業女子100人プロジェクトが生産した野菜で作られたスープが参加者に振舞われ、登壇者5名でのパネルディスカッションが行われました。貧困問題、地産地消、40%に満たない食料自給率、生産農家の悩みなど、さらに深掘した議論が行われ、社会が包括的に抱える慢性的な課題を打破するためのヒントが、その中にあったのではないかと考えています。

私達は食べ物を作る、流通させる、提供する、消費するなど「食」に接しない日はありません。「食」に限りませんが、一人でも多くの方が、「未来は自分の消費行動や考え方によって左右される」という事を自覚して欲しいと思います。

食のグリーン購入研究会 木田 幸司（たねやグループ）



第5回 生物多様性で拓く未来 ～2020愛知目標の10年とこれからの10年～

12月18日(水)開催



SDGsを構成する大事な要素の一つに「生物多様性」があります。地球の自然の中で私たち人類が生まれ、生き物たちのつながりが私たちの暮らしを支えています。生物多様性を守ることは、暮らしやすい地球環境を保つことでもあるのです。10年前に日本で開催された会議で2020年をゴールとした20の目標（愛知ターゲット）が採択されました。達成目標の1つに「生物多様性の主流化」があります。私たち生物多様性と環境・CSR研究会は、この主流化

を意識して、2015年の発足以来、セミナーを通じて生物多様性保全に取り組む意義や先事例、国際動向などの情報を提供し、参加者の交流を図ることに取り組んできました。

本講座では、基調講演に道家哲平さん（公益財団法人日本自然協会 広報会員連携部長／国際自然保護連合IUCN日本委員会事務局）を招き、生物多様性の世界の浸透度、脅威への対応としてのESG投資などの新しい動き、意識の高まりによる企業による保全活動、地域支援の広がりなどについて講演いただきました。また、県内事例として琵琶湖にまつわる取り組みを中井克樹さん（琵琶湖博物館 専門学芸員）に、里山にまつわる取り組みを河瀬直幹さん（みなくち子どもの森 学芸員）にご報告いただきました。

生物多様性と環境・CSR研究会 千々岩 哲（㈱地域環境計画）



SDGs実践・交流塾 「中小企業が経営にSDGsを落とし込むには？」その1～4



受講生記念撮影

本連続講座の第2部は、参加者がSDGsを自社事業に落とし込むための塾です。SDGsの実現のために、自分の組織にはどんな存在意義があるのかをじっくり考えていただきました。その1は、まず取り組むための意識づくりと仲間づくり。その2は、自社の目指す理想の社会像と、そのための社会的使命を「コンセプト・ワード」にまとめるという課題を元に進めました。その3は現在行っている事業を棚卸しし、各々をSDGsに紐づけて、

自らの事業が社会に与えるインパクトの全体像を見る作業を。その4では、SDGsを中長期の事業計画に落とし込むために、田瀬さんより教わった「時間的逆算思考」「論理的逆算思考」「レバレッジ・ポイント」の三つの考え方を活用し、大きな目標を描いてロードマップを考えていただきました。適宜、塾ナビゲーターである滋賀銀行の嶋崎良伸さん、油藤商事の青山裕史さんより貴重な示唆をいただきながら、コーディネーターの宮永健太郎さん（京都産業大学経営学部准教授）とともに盛り上げました。毎回ハードな宿題を出しましたが、発表いただいたり、他の参加者に意見をもらったりされる中で、自らの事業のあり方と社会における存在意義を見つめ直すことができたと思います。本塾をきっかけに、持続可能な社会をつくる一員として皆さんが新しいスタートを切られたと信じ、今後の事業展開を期待しています。

SDGs実践・交流塾コーディネーター 南村 多津恵（くうのるくらすの創造舎 代表）



Relay
Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

株式会社ノエビア 滋賀工場

滋賀工場 ISO 事務局 坂本 公美恵



ノエビアは「自然を科学する」を企業ポリシーに国内におけるハーバルスキンケアのパイオニアとして、これまでに約2,500種類に及ぶ植物研究や成分分析を行い、お肌に安心・安全かつ機能性の高い商品を通して、女性の美しさを応援しています。

鈴鹿山脈からの良質な水に恵まれた東近江市に1982年に滋賀研究所（現グループ総合研究所）と滋賀工場を開設し、自然豊かな環境の中で開発から生産までを行っています。

滋賀工場では、2000年にISO9001、2001年にISO14001を認証取得し、その後、2015年には化粧品GMPの国際規格である「ISO22716」に認証切替を行い、品質・環境を重視した生産体制をと



ノエビア 滋賀工場 化粧品生産ライン



回収された空き容器

ています。ISO14001のシステム構築当初、SGNの会員企業様との勉強会や懇親

会により、従業員における環境への意識を高めることの必要性をあらためて認識しました。他社様の取組を参考に、まずは節電や節水、廃棄物管理、グリーン購入など従業員一人ひとりが参加できる少人数のプロジェクト活動から始めました。さらに、自動栓や自動照明の導入、LED照明への入替、設備更新などにより、環境負荷の低減につながる取組を行いました。特に工場から排出される排水の処理は、電離イオン方式による処理施設への更新により、薬剤の使用量が削減され、廃棄物となる汚泥量の削減につながりました。また、京セラさんから頂いたゴーヤの苗は、立派なグリーンカーテンに成長し大きな反響をいただきました。

全社の取組として、ノエビアの販売網を活用して全国の販売店と共に使用済容器の回収活動を行っております。また「公益財団法人ノエビアグリーン財団」では、子供たちを対象に「山」「海」「空」「島」をキーワードにした「環境教室」や環境保全活動を行っております。

また、危機管理体制の一環として東京と神戸の本社及び滋賀の事業所の一部社員はテレワークを基本とする働き方に大きく変化しました。通勤や出張などの移動が無くなり、Web会議やメール、チャットなどが主なコミュニケーションツールとなりました。さらに、情報共有の効率化やオンライン化により紙の使用量削減にもつながりました。以前は、滋賀の事業所は立地的にも「エコ通勤」は難しいと考えていましたが、今では時間や場所にとらわれない柔軟な働き方へと大きく変化し続けています。この記事が掲載される頃には、全国的に新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、新たな日常を迎えていることを願っています。

今回は、小林事務機株式会社さんをお願いします。



ノエビア滋賀工場(空撮)

株式会社ノエビア 滋賀工場

〒527-8588 滋賀県東近江市岡田町112-1

TEL：0748-23-1161 FAX：0748-23-2769

<https://www.noevir.co.jp>

*ISO9001とISO14001は認証の切替により返上しております。



農業女子見~つけたっ!③

レイクスファーム
つじくみこ
辻 久美子さん
lakesfarm.jp/



★農業を始めたのは、いつから？ 下の子が幼稚園の年長になってから。

★農業を始めたきっかけは？ お義母さんが手掛けていたブルーベリー畑が荒れ果てていたのを立て直すために始めました。

★頑張っていることは？ 雨にも負けず、風にも負けず、虫にも負けず、草にも負けず、皆さまに愛されるような農産物を作ること、発信することに力を入れています。

★夢は？ 椅子に座ってぼーっとしていただけるような人生の楽園をつくること。

「しが農業女子100人プロジェクト※」の応援よろしく
お願いします!

※「農業を通して、おいしい楽しいを分かち合う社会をつくる」ことを目指す女性農業者と支援者の集まり

「びわ湖が恋する野菜たち」のサイトで野菜
ボックス販売中です! <https://biwacoi.com/>



新規会員から ひとこと

2019年7月25日から2020年7月31日までの入会者
(団体名の50音順)



特定非営利活動法人HCCグループ

理事長 浅野 智子

まちづくり、グリーンツーリズム、フェアトレード20年。現在、大津市市民活動センターの指定管理でSDGsをテーマに市民、行政、企業、大学の協働事業を進めています。



株式会社アオヤマエコシステム

代表取締役 青山 敦

産業設備洗浄を中心に製造業における様々な問題を解決し、省エネ・環境改善・安定稼働・品質保持に貢献します。顧客の資源利用効率を高め、企業・社会の発展に貢献します。



エコロテック株式会社

取締役工場長 井倉 剛

「もったいない」と経費削減の『三方よし』のリユースカーカートリッジの製造・販売を水口町で長年取り組んできました。今後も持続可能な社会への貢献を考えています。



株式会社えふえむ草津

パーソナリティ 菅野 らら

市民と観光客の憩いの場「草津夢本陣」内のスタジオから、市民と共に作るラジオ局として、防災・地域・生涯学習などを始め、環境活動の情報発信にも力を注いでいます。



有限会社オフィス・エルランティー

代表取締役 上林 妙子

人間が活動することにより、環境汚染が少しでも軽減される事での「界面活性剤ゼロの洗浄剤」「フードロス問題」「鮮度保持技術」「人の健康のお手伝い」を伝えている会社です。



株式会社叶匠寿庵

代表取締役社長 芝田 冬樹

大津市大石の里山「^{すな}長生^{さと}の郷」で和菓子を製造・販売しています。素材を自分達で育てることで自然から学ぶ菓子づくりを行い、環境保全について学んでいきたいと思っています。



河原啓文行政書士事務所

代表 河原 啓文

湖南省で行政書士事務所を開設しています。長年の公務員としての知識と経験を活かし、環境に配慮した事業に取り組まれる企業・団体様のお手伝いができたらと思っています。



工房シーダーノ

代表 八尋 由佳

滋賀県産無農薬栽培の大麦を使ってストローの制作、販売を始めました。脱プラスチックを考えるきっかけになるように、ゴミになる「すとりーっている?」と問い続けていきたいです。



BIWAKO ZERO WASTE

共同代表 野口 かおる

私達は、主婦、母親、個人事業主の5人組です。地球環境を保つ為、日々の生活で楽しく出来ることを学び実践し、そのコミュニティ作りを目指しています。



三菱ケミカル株式会社 滋賀研究所

所長 根本 友幸

三菱ケミカルの機能商品分野をより発展させるべく、高機能・高付加価値の製品にチャレンジし、お客様と共に環境に調和した豊かで快適な社会づくりに貢献していきます。



Linkしが

代表 香田 雅子

プロの整理収納アドバイザーで構成する非営利活動団体です。整理収納のスキルで滋賀にエシカルなライフスタイルを広めよう!と、小学校出前授業や啓発セミナー・イベントを開催しています。

現会員数：469 団体 [企業 381、団体 67、行政 21] (2020年8月1日現在)



会員発工コ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～競走馬の調教用ゼッケンで作るバッグ～

steed(優駿)

サンキューファインホース夢プロジェクト

滋賀県栗東市にある日本中央競馬会(JRA) 栗東トレーニングセンターから年間約2000枚廃棄されていた調教用ゼッケン(ペットボトル再生素材)を“もったいない”とリメイクしたお洒落なバッグ。競走馬の年齢を表すゼッケンの3つの色と、厩舎及び馬の固体番号を表す数字で馬の個体名までわかる“世界にひとつだけ”のバッグで、ゼッケンをつけていた馬に思いを馳せるのも楽しいですね。「使っていたものだからこそ使いたい」と思える商品です。県内3ヶ所の共同作業所で製作しており、グリーン購入のみならず、滋賀県の福祉にも貢献できるサステナブルなバッグです。



第1回「買うエコ大賞」(2014年大会)『滋賀グリーン活動ネットワーク会長賞』を受賞しました。

〈お問合せ〉サンキューファインホース夢プロジェクト

滋賀県守山市水保165-1 びわこみみの里内
TEL: 077-514-9078 FAX: 077-585-7144
URL: <http://www.33nosato.jp/>

電気のいらない 陶器の加湿器

日産陶業株式会社

滋賀の代表的な工芸品のひとつである「信楽焼」で作られた、電気の要らない“脱エネルギー”を実現した加湿器です。受け皿に水を入れておくだけで加湿効果があります。窯業技術試験場と共同で時間をかけて吸収・蒸散するように試行錯誤を繰り返し、浸透蒸散、吸収等の多孔質陶器ならではの機能を最大限に活用しました。取り扱いが非常に簡単なので、どなたでも簡単にお使いいただける、人にもやさしい商品です。



第2回「買うエコ大賞」(2016年大会)『大賞』受賞商品です。

〈お問合せ〉日産陶業株式会社

滋賀県甲賀市信楽町江田589番地
TEL: 0748-82-1128 FAX: 0748-82-3307
E-mail: info@nissantougyo.co.jp
URL: <http://www.nissantougyo.co.jp/category/9/>

編集後記

2020年6月2日、グリーンweb購入ミーティングが「ポスト・コロナ時代を見据えて」というタイトルで開催されました。その中でリサイクルの現状や琵琶湖でもその発生が確認されているマイクロプラスチックについての講演を聞かせて頂き、理解を深めることができました。

私の所属する廃棄物バスターズは廃棄プラスチック問題解決を目指し、彦根市清掃活動や廃棄プラスチックでできた雨水タンクの試作などを行っています。また昨年度から琵琶湖のマイクロプラスチック発生抑制のための取り組みとして、企業の方と連携して琵琶湖湖岸の清掃活動を行いました。参加者の方には活動を通してマイクロプラスチックのことやゴミの分別の大切さ、適正な処理方法の知識を理解して頂くことができました。

悪者扱いされているプラスチックですが、きちんと分別処理すれば再利用することのできる有用な材料です。正しく使用するには一人でも多くの方が環境知識を身に付けることが必要だと考えています。今後はグリーン活動などを通して地域とのつながりを強化しつつ、少しでも環境問題に意識を向けてくれる方が増えるような取り組みをしていきたいと考えています。

(幹事/滋賀県立大学廃棄物バスターズ 杉江 太一)

新型コロナウイルスの蔓延。緊急事態宣言発令。外出自粛。息苦しい毎日を過ごしました。当社でもリモートワークが急増。慣れない者にはハードルの高い内容ですが実施すれば習慣化します。並行して「働き方改革」が加速し、会議の見直しやワークスタイルが変わり始めました。事態が変化すれば「できない中で何ができるか」という思考に変換できることに気づきました。

また、感染者数が減少傾向に転じた要因の一つは「手洗い・うがい・消毒」の慣行です。「自分の行動が命を救う」と、身近な事として捉えた行動から大きな成果が生まれたと感じています。

私たちが進めている「グリーン活動」でも同様の事が言えると思います。

日本のプラスチックごみの年間排出量は約900万トンだそうです。「自分の行動が未来を救う」と考えて、削減に向けた行動を徹底すれば排出量は必ず減少する。明るい未来を思い描きながらマイバックを購入しマイボトルでコーヒーを楽しむ日々です。

環境問題もコロナウイルスとの共存も逡巡しつつ「改革」と「団結」で前進してゆきたいものです。

(幹事/びわ湖パナソニックファミリー会 文室 和美)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: <https://www.shigagpn.gr.jp/>

